

森博幸市長



市 長 わたしの好きな言葉は「人事を尽くして天命を待つ」です。北京オリンピックでの銅メダルの獲得に向けて取り組んだ宮下さんの姿にその言葉が当てはまると思いますが、いかがですか。

水泳を始めたきっかけ

市 長 さて、お二人がいろいろなスポーツの中から水泳を選ばれたのは、どんなことがきっかけですか。

宮下さん 北京オリンピックまで残り10カ月を切っても、なかなかタイムを伸ばすことができず、オリンピックを目指したころに後悔を感じ、涙ながらに母に電話をかけたときに母から「昔のように水泳を楽しんでい

るの？高校のときはもつと楽しそうに泳ぎに行っていたがね」と言われたんです。そのとき、不思議と気持ちが楽になり、水泳を楽しもうと思えるようになりました。

市 長 福留さんにとって特別な思いで迎える新年だと思えます。ロンドンオリンピック出場への意気込みはいかがですか。



福留さん オリンピックはあこがれの舞台ですし、ロンドンオリンピック出場を目標に練習に励んでいます。プレッシャーを感じないよう

市 長 身体の細い福留さんを見ると、どこにそのような馬力があるのかと思います。宮下さん そうですね。彼女が国体200メートル平泳ぎ決勝で逆転して4連覇を達成したのはすごい。そのときの気持ちはどうでしたか。

スポーツの魅力

福留さん 負けるかなと思いましたが、タッチの差で勝って本当にうれしかったですね。これまでの努力に勝利の女神様がこぼつてくれたのかなと思っています。国体の4連覇や高校最後のインターハイで100・200メートル平泳ぎ2冠を達成

市 長 わたしはスポーツをすることも観戦することも好きですが、お二人はスポーツの魅力は何だと思われますか。福留さん スポーツ全般に言えることですが、自分ががんばった分だけ、タイムや成績に反映することです。わたしは「努力は必ず報われる」と信じて練習しています。中学1年生のとき、コーチと「生涯目標」を立てました。目標実現のために1年こ

市 長 お二人の話聞いて、スポーツは人を育てること、多くの人に勇気や感動を与えるということがよくわかりました。ぜひ、未来を担う多くの子どもたちにスポーツをしてほしいと思いますね。



宮下 純一さん

昭和58年、鹿児島市生まれ。筑波大学卒業後、ホリプロに入社。平成20年の北京オリンピックでは100m背泳ぎで決勝8位入賞、400mメドレーリレーでは銅メダルを獲得。引退後はタレント・スポーツキャスターとして活躍する一方、(財)日本水泳連盟競泳委員として次世代の選手指導・育成にも携わっている。



福留 景子さん

平成5年、鹿児島市生まれ。鹿児島実業高校3年生。中学2年のとき200m平泳ぎで国内中学新記録を樹立。高校2年のときには国内高校新記録を樹立。2010年FINA/ARENA競泳ワールドカップモスクワ大会優勝、国民体育大会4連覇など実績は多数。

まちづくりの新たなステージ

宮下さん 九州新幹線全線開業から3月で1年を迎えます。わたしも仕事などで利用して、鹿児島中央駅に降り立つと「ふるさとに帰ってきた」とほっとすると同時に、鹿児島のまちの躍動を感じます。これからもっと発展するよう期待しています。が、今後の鹿児島市のまちづくりについて教えていただけませんか。

市 長 昨年待望の九州新幹線が全線開業し、中国・関西方面からの観光客が大幅に増加するなど、地域経済にプラスの効果が見られています。開業2年目となる今年はこの効果を持続拡大していくことが重要になると思っています。桜島や錦江湾に代表される雄大な自然や個性豊かな歴史・文化、豊富な温泉や特色ある食文化など本市の持つ地域資源にさらに磨きをかけ、市民が「住んでよかった」と愛着や誇りを持つまち、観光客には「また訪れたい」と思ってもらえるような魅力と個性あふれるまちを創造していきたいと考えています。

宮下さん スポーツの振興とまちづくりについてはいかがでしょうか。

市 長 本市ではこれまで、世界室内自転車競技選手権やワールドカップバレーボールなど世界レベルの大会、各種スポーツの全国大会が開催されています。新幹線全線開業で今後ますます交流人口の増大が期待される中、スポーツを通じたまちづくりの視点も重要だと思えます。本市では市民の皆さんが生涯を通して身近にスポーツを楽しめるよう施設の整備や市民参加型のスポーツのイベント開催などにも積極的に取り組んでいきたいと考えています。また、平成32年に予定されている国民体育大会の本県開催を見据えた選手の育成など、競技スポーツの推進を図ることに一層力を注ぐことも必要でしょう。そうした取り組みを通して、スポーツ界を代表する多くの選手が育つ環境をつくりたいですね。

“豊かさ”実感都市・かごしまを目指して

宮下さん わたしも鹿児島から多くのアスリートが育つことを期待していますし、お手伝いできることがあれば協力させていただきます。ありがとうございます。

市 長 お二人と対談して、大きな勇気とパワーをいただきました。最後に、それぞれの新年の抱負と、市民の皆さんへのメッセージをお願いします。宮下さん わたしは鹿児島のシンボル・桜島を携帯電話の待ち受け画面にしているほど、ふるさとが好きです。食べ物おいしい。人も温かい。景色も温泉も最高。県外の友人にも「ぜひ鹿児島に一度行ってみて」と勧められています。鹿児島市がこれからもさまざまな機会を捉えてPR

市 長 本市ではこれまで、世界室内自転車競技選手権やワールドカップバレーボールなど世界レベルの大会、各種スポーツの全国大会が開催されています。新幹線全線開業で今後ますます交流人口の増大が期待される中、スポーツを通じたまちづくりの視点も重要だと思えます。本市では市民の皆さんが生涯を通して身近にスポーツを楽しめるよう施設の整備や市民参加型のスポーツのイベント開催などにも積極的に取り組んでいきたいと考えています。また、平成32年に予定されている国民体育大会の本県開催を見据えた選手の育成など、競技スポーツの推進を図ることに一層力を注ぐことも必要でしょう。そうした取り組みを通して、スポーツ界を代表する多くの選手が育つ環境をつくりたいですね。



与次郎の長水路にて

市 長 ありがとうございませう。今年、本市では今後10年間のまちづくりの指針となる第五次総合計画がスタートします。計画では、「人・まち・みどり」みんなで創る「豊かさ」実感都市・かごしま」を都市像として掲げており、その実現に向けて市民と協働・連携して全力で取り組んでいきます。宮下さんと福留さんにはそれぞれの立場で鹿児島の発展のためにご協力いただきますとともに、あらゆる機会を通じて鹿児島の魅力を発信していただきますようお願いいたします。お二人の今後ますますの活躍を60万市民とともに応援しています。本日は貴重なお話をありがとうございました。